

# 那須塩原・リンツ

## リンツ市がグリーン首都へ



### 環境対策により環境汚染が治まった

リンツ市は、環境汚染が課題となっていた産業都市でした。そこで、1980年代に環境対策を行い、その結果、リンツ市民の生活の質を向上することができました。

現在、リンツ市は、世界中で話題になっている環境問題とSDGsに積極的に取り組んでいます。オーストリアが加盟している欧州連合では、環境対策に力を入れている都市を選出する「欧州グリーン首都賞」という取り組みを行っています。今後、リンツ市では、「欧州グリーン首都」の選定を目指して、環境対策とSDGsの取り組みを促進していく予定です。

現在のリンツ市では「温暖化」や「気候変動」が一番の課題です。そのため、CO<sub>2</sub>の減量化や

気候変動への対応に取り組んでいます。

リンツ市では、気候戦略として、以下の5つの柱を発表しています。

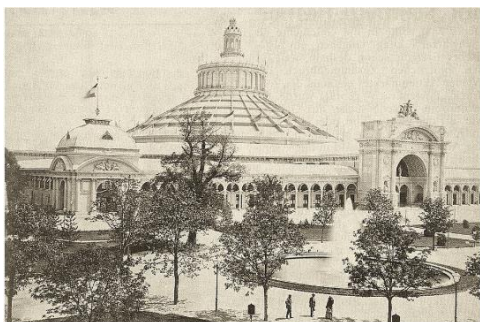
- ①制度、研究、情報
- ②街づくり、建築、緑地
- ③エネルギー（持続可能性エネルギー、エネルギー効率、地域暖房、冷房）
- ④自然と食生活（バイオ・ダイバーシティ、有機農業、公正取引、持続可能な消費）
- ⑤交通とモビリティ（公共交通機関や自転車の支援、電気自動車の支援）

他にも、リンツ市はデジタルが盛んであるため、アプリなどを活用した環境対策も行っています。例えば、食品ロスの対策として、お得な値段で余った食品を売りたい企業とその食品を欲する人を繋ぐアプリや果実を自由に採取できる果樹園の場所が分かる地図アプリなどがあります。これらは、市民が簡単に参加できる取り組みです。



公共交通機関は、1年間乗り放題のチケットなど

## 歴史コーナー：岩倉使節団が訪ねたオーストリア



ウィーン万国博覧会の大パビリオン  
©パブリックドメイン

にも影響を与え、日本の芸術品にインスパイアされたことで「ジャポニズム」がさらに広がりました。

岩倉使節団が残した記録によると、オーストリアの印象は、軍部の分野では学ぶことが少ないが、芸術が華やかな国であると思っていたそうです。特に、世界遺産でもある「セメリング鉱山鉄道」が気に入ったそうです。そして、1875年からは、青木周蔵がオーストリア公使となりました。

## 那須塩原・リンツ

### あの人：宇都野淳さん



「大会は終わりましたが、レガシーとして新たな交流事業はスタートしています」

#### ホストタウン交流について：

那須塩原市は、オーストリアを相手国として、ホストタウン及び共生社会ホストタウンに登録しました。トライアスロンチームが2018年に国際大会、2019年にプレ大会に出場する際の事前合宿では、選手の学校訪問や市民交流会を開催しました。2020年には、8名のオーストリアパラアスリートと市内の9の小中義務教育校がオンラインで交流会を重ね大会に向けたエールを送りました。本大会では、那須塩原市と同様にホストタウンに登録されていた岩手県矢巾町と長野県安曇野市、さらに、オーストリア関係者が連携して、「おもてなし料理の制作」や「合唱動画の制作」、「オンライン交流会絵本の制作」に取り組みました。これらの取り組みは、選手や多くのオーストリア関係者に感動を与える事業となりました。



合宿選手とともに

#### プロフィール

名字：宇都野(うつの)

名前：淳(あつし)

出身：那須塩原市

居所：那須塩原市

職業：那須塩原市企画部 市民協働推進課 R4変更

モットー：

「昨日より今日、今日より明日」

#### その中で特に思い出になった時について：

本大会のトライアスロンチーム事前合宿では、選手との信頼関係を築き、最高の状態で選手を大会に送り出すため、関係者全員で準備に全力で取り組みました。合宿中の選手に対して、3自治体連携で取り組んだ創作料理や合唱動画を届けた時には、選手の方々に心から「ありがとう」という言葉を頂き、胸が熱くなりました。選手村に出発する最終日には、とても寂しい気持ちになり、絆が更に深まりました。



選手村とオンラインで繋いで応援

パラ選手と交流した学校では、寄せ書きした応援旗を作成し選手に届けたり、応援動画を作り大会前の選手に送りました。また、選手村とオンラインで繋いで、歌を披露して応援するなど心のこもった活動ができました。

#### 「これから」について：

東京大会は多くの記録と記憶を残して閉幕しました。オリパラは私たちに、コロナ禍でも、想いがあれば、様々な取り組みの可能性が生まれることを教えてくれました。大会終了後に、3自治体の関係者、オーストリア関係者をオンラインで結び、オリパラレガシーの話し合いをしました。今後の取組としては、スポーツの交流や音楽などの文化交流、食の連携交流、また、共生社会の取り組みや環境の取組が考えられます。

大会は終わりましたが、レガシーとして新たな交流事業はスタートしています。また、アスリート達は、パリ大会に向けた練習を始めていると聞いております。オリパラはこれからも、多くの希望を乗せたオリパラレガシーとして、両国の発展に寄与するものと期待します。

# 那須塩原・リンツ

## 生き生きとした姉妹都市関係

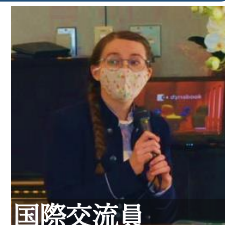


亀井副市長

### 2022年1月16日(土) 姉妹都市5周年イベント

那須塩原市とリンツ市の姉妹都市提携5周年のきっかけに、亀井副市長と国際交流員とのトークイベントが開催されました。これまでの交流とこれからの姉妹都市交流について話しました。

両市は、現在、SDGsや再生可能エネルギーなどに力を入れています。環境省から来た亀井副市長に、那須塩原市の状況や可能性を聞き、両市の特徴や共通点を知りました。これからの交流は、中学生交流と文化交流を続けながら、他の分野でも情報交換をしたいことや実際に会うことだけではなく、オンラインでの交流も深めたいと話していました。



国際交流員



パネル展



オンラインで交流

また、当日には、ウィーン大学生のハートルさんが作成したリンツ市紹介動画の上映をし、1月16日～23日には、姉妹都市5周年記念のパネル展が行われました。

### 2021年度中学生オンライン交流

2022年2月12日に、那須塩原市の中学生35人とリンツ市アウホーフ校の中学生14人がオンラインで交流をしました。青木周蔵について学習し、動画でお互いの市や文化の紹介を行いました。さらに、少人数のグループに分かれ、英語で交流を行い、アウホーフ校の生徒は、「皆さんとの交流は、一生忘れない！」と喜んでいました。



サルム氏により青木氏紹介

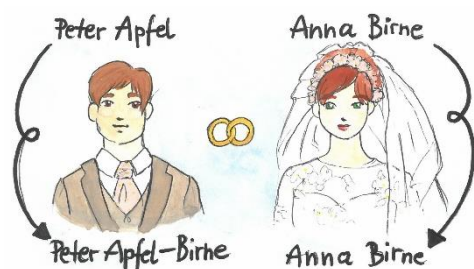
イベント案内 ☆ 日本とヨーロッパの架け橋であった青木周蔵をもっと知ろう！

### ①日独修好160周年記念事業「青木周蔵パネル展」

- ◆期間：2022年4月9日(土)～5月8日(日) ※4月中の月曜日は定休日 ◆会館時間：9:00～17:30
- ◆場所：旧青木家那須別邸 ◆対象：どなたでも ◆入館料：200円(小中学生100円)

明治時代にドイツの公使を務め、ドイツとゆかりの深い青木周蔵をより深く知ろう！オーストリアのシュタイレック城にある青木家コレクションの中から日本で未公開の資料を紹介します！

## 文化コーナー：「ダブルネーム」って何？



- オーストリアで結婚する時には、「妻が夫の名字を使う」ことは必須ではありません。次の3つの選択肢があります。
- ①結婚する2人の名字のどちらかを共用の名字にすること。
  - ②結婚する2人は、結婚前のそれぞれの名字をそのまま使い続けること。
  - ③二人の名字をハイフンで繋いで、「ダブルネーム」にすること。

例えば、ApfelさんとBirneさんが結婚してダブルネームにする時は、「Apfel-Birneさん」や「Birne-Apfelさん」となります。カタカナで書く時は「アプフェル=ビルネさん」のようにダブルハイフンを使います。ダブルネームは、夫婦で共用しても、一人だけが使うことも可能です。しかし、2つの名字までしか使えないので、「Apfel-Birne-Clementineさん」にはなりません。また、下の名前に合わせて書く場合は、「①下の名前②ミドルネーム(ある場合)③名字」の順番になります。つまり、「Peter Apfel-Birne (ペーター・アプフェル=ビルネさん)」となります。

# 那須塩原・リンツ

## 作ってみましょう ☆ オープンサンド「ベレクテス・プロート」

もうすぐ、「母の日」と「父の日」です！お父さんやお母さんのためにオープンサンドを作ってみませんか？

**材料：**パン（黒パンやバゲットがおすすめ）、クリームチーズ、ハム、チーズ、野菜（キュウリ、トマト、パプリカ、ラディッシュなど）、漬物（キュウリのピクルス、オリーブなど）、ハーブ（パセリ、バジル、クレッソンなど）、塩胡椒、固ゆで卵

**手順：**スライスしたパンにクリームチーズを塗り、ハムやチーズを乗せます。そこに好きな野菜や漬物、卵のスライスを乗せます。きれいに乗せるとおしゃれです！最後に、小さく切ったハーブと塩胡椒を振りかけます。



「フロリンとおうち時間」でも紹介しています。



答えは下

*Hyvää päivää!*  
*Guten Tag!*  
*Jó napot!*  
*Goddag!*



**Q:** 青木周蔵が話していた言語はどれですか？

**A:** フィンランド語

**B:** ドイツ語

**C:** ハンガリー語

**D:** デンマーク語



## SDGs コーナー：ギュッシング市



ギュッシング市は、山の上にあるお城や森林が見どころの小さなまちです。とても田舎ですが、再生可能エネルギーの分野では広く知られています。1980年頃はとても貧しい地域であったことから、地域住民の電気や灯油のコストを少なくするために、1990年に脱化石エネルギーを目指すことに決めました。そこで、たくさんある木材を活かし、木質バイオマス発電・発熱所を立ち上げ、今ではエネルギー利用率

ギュッシング市 ©Bwag/CC-BY-SA-4.0.

が85%で、電気も熱も作れます。このようにして、ギュッシング市ではエネルギー自給が実現しました。しかし、助成資金制度が変更されたことで、経営が難しくなり、2016年に木質バイオマス発電・発熱所は閉業しました。それでも、グリーンエネルギーに力を入れているギュッシング市には、「ヨーロッパ再生可能エネルギー研究所 (EEE)」など、再生可能エネルギーに関係する施設が数多くあります。

組織が変更になりました。2022年4月からは、市民協働推進課ダイバーシティ推進係がリンツ市との姉妹都市交流を担当しています。

発行：那須塩原市企画部市民協働推進課（担当：フロレンティーネ・ロンニガー）

事務局：〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108-2 TEL: 0287-62-7019

FAX: 0287-62-7220 Eメール: kyoudousuishin@city.nasushiobara.lg.jp

バックナンバー・ドイツ語・英語編:

<https://www.city.nasushiobara.lg.jp/soshikikarasagasu/>

[shiminkyodosuishinka/shiminsankaku/kokusaikouryuu/3/4240.html](https://www.city.nasushiobara.lg.jp/shiminkyodosuishinka/shiminsankaku/kokusaikouryuu/3/4240.html)



検索 那須塩原市海外姉妹都市ニュースレター



ドイツ語の答えはB. ちなみに、オンライン英語もはなせました！